

2/12-18 #6 キリストの前に置かれた喜びと私たちの前に置かれた喜び Bird's Eye View 私たちの信仰の創始者、また完成者であるイエスは、ご自分の前に置かれた喜びのために、「恥をもいとわないうで十字架を耐え忍び」(ヘブ12:2)ました。A 主は召会を愛して、彼女のためにご自身を捨てました。エペ5:25 夫たちよ、キリストが召会を愛して、彼女のためにご自身を捨てられたように、あなたがたの妻を愛しなさい。B 主は十字架上で、ご自身を罪のための犠牲としてささげ、多くの人の罪を担い、信者たちのために罪とされ、この世の支配者を追い出し、この世を裁きました。また彼は一粒の麦として、死の中へと落ちて神聖な命を解き放ちました。C コロサイ2:15は、キリストが十字架につけられた時に起こった戦いを描写しています。コロ2:15 神は支配たちや権威たちをはぎ取り、彼らを公然とさらしものにして、そこにおいて彼らに、凱旋の中で勝ち誇られました。1 キリストは十字架につけられた時、贖いを完成するために働いており、また父なる神は、罪を裁くために働いていました。2 同時に、支配たちや権威たちも忙しくしており、神とキリストの働きを妨げようとしていました。4 神が罪を裁いていた間、邪悪な支配たちや権威たちはそこにおいて、非常に活動的であり、十字架につけられたキリストの周りに群がり、とても近くに押し迫っていました。a もし彼らが近くに押し迫っていなかったなら、神は彼らをはぎ取ることはできなかったでしょう。b 「はぎ取り」という言葉が示しているのは、私たちの衣服と体が近いのと同じくらい、支配たちや権威たちがとても近くにいたということです。5 神は支配たちや権威たちをはぎ取った時、彼らを公然とさらしものにして、彼らを辱め、十字架において彼らに凱旋の中で勝ち誇りました。II 私たちの前に置かれた喜びは、花嫁である主イエスが、用意を整えた彼の花嫁のために来ることです。啓19:7 私たちは喜び歓喜し、彼に栄光を帰そう。小羊の婚姻の時が来て、彼の妻は用意を整えたからである。A 花嫁の円熟 1 団体の花嫁の用意は、勝利者たちの命における円熟にかかっています。2 造り変えられるとは、私たちの天然の命において新陳代謝的に変えられることですが、円熟するとは、私たちを変える神聖な命で満たされることです。B 花嫁の建造: エペ2:21-22 その方の中で、建物全体が共に組み合わされ、主の中にある聖なる宮へと成長していき、その方の中で、あなたがたもまた共に建造されて、霊の中にある神の住まいへと至るのです。1 神の建造は、神の心の願い、また神の救いの目標です。2 主の回復の目標とは、私たちにとって命またすべてとしてのキリストを回復して、私たちが建造されるようにすることです。3 神の建造は、三一の神の団体的な表現です。C 花嫁の義 2 神に対しても人に対しても正しい生活は、日常生活における私た

ちの表現としての神でなければなりません。3 主観的な義として聖徒たちから生かし出されたキリストが、彼らの婚宴の礼服となります。啓19:8 彼女は輝く清い細糸の亜麻布の衣を着ることを許された。その細糸の亜麻布の衣は、聖徒たちの義である。4 マタイ22:11~13の婚宴の礼服は、私たちの超越した義として、私たちが日常生活で生かし出すキリスト、また私たちを通して表現されるキリストを表徴します。マタ22:11しかし、王が入って来て、食卓に着いている人たちを見ると、そこに婚宴の礼服を着ていない人を見たので、12 彼に言った、『友よ、なぜあなたは、婚宴の礼服を着ないで、ここに入って来たのですか?』。彼は返事ができなかった。13 そこで、王はしもべたちに言った、『彼の足と手を縛って、外の暗やみに放り出さなさい。そこでは、泣き叫んだり歯がみしたりする』。D 花嫁の美しさ: エペ5:26 それはキリストが召会を聖化し、言葉の中の水の洗いによって召会を清めるためであり、27 またそれは、しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖くて傷のない栄光の召会を、彼がご自身にささげるためです。2 花嫁の美しさは、召会の中へと造り込まれるキリスト、そして召会を通して表現されるキリストから来ます: エペ3:17 キリストが、信仰を通してあなたがたの心の中に、ご自身のホームを造ることができますように。a 私たちの唯一の美しさとは、私たちの内側からキリストが輝き出すことです。E エペソ6章と啓示録19章が啓示しているのは、花嫁としての召会が、神の敵を打ち破る戦士でもなければならないということでした。1 霊的戦いは、からだの事柄です。私たちは団体的な軍隊であり、地上における神の権益のために戦います。2 エペソ5章では、言葉は養いのためであり、花嫁を美しくします。しかし、エペソ6章では、言葉は殺すためであり、団体的な戦士としての召会が霊的戦いに従事することができるようにします。3 キリストは戦う将軍として、彼の軍隊である彼の花嫁と共に来て、ハルマゲドンで反キリストと戦います。4 婚宴の礼服は、私たちの日ごとの義として私たちから生かし出されたキリストです。これにより、私たちは婚宴に参加する資格を持つだけでなく、また軍隊に加わる資格をも持って、ハルマゲドンの戦いにおいて、キリストと共に反キリストと戦います。III 「エホバを喜ぶことこそ、あなたがたの力である」(ネへ8:10) A 1 それは、私たちが力を持つという事柄ではありません。彼の喜びが私たちを支えます。2 主の喜びは、環境とは関係がありません。主は神のみこころの中で喜びました。神のみこころを知り、行なうことに、喜びがありました。3 私たちは主を模倣すべきではなく、主の喜びを受けべきです。a 私たちは、私たちに分け与えられた主のものを持つことができます。b 私たちは主の喜びを持つことができます。彼の喜びは、私たちの力となります。B ウオッチマン・

ニ一は、彼の生涯の終わりに、彼の苦難のただ中で、「私は自分の喜びを保ち続けています」と言いました。C「私は自分の喜びを保ち続けています」が示しているのは、彼がピリピ4:4の使徒パウロの言葉、「主の中でいつも喜びなさい」を実行していたということです。D神のあわれみと恵みを通して、私たちがみな、私たちの力としての主の喜びによって、私たちの喜びを保ち続けることができますように。

CP1前に置かれた喜びがあるので、主の中で反対を耐え忍び、邪悪な勢力が剥ぎ取られることを経験し、主と共に前進する

I私たちの信仰の創始者、また完成者であるイエスは、ご自分の前に置かれた喜びのために、「恥をもいとわないで十字架を耐え忍び」(ヘブ12:2)ました。A主は召会を愛して、彼女のためにご自身を捨てました。エペ5:25 夫たちよ、キリストが召会を愛して、彼女のためにご自身を捨てられたように、あなたがたの妻を愛しなさい。B主は十字架上で、ご自身を罪のための犠牲としてささげ、多くの人の罪を担い、信者たちのために罪とされ、この世の支配者を追い出し、この世を裁きました。また彼は一粒の麦として、死の中へと落ちて神聖な命を解き放ちました。Cコロサイ2:15は、キリストが十字架につけられた時に起こった戦いを描写しています。コロ2:15神は支配たちや権威たちをはぎ取り、彼らを公然とさらしものにして、そこにおいて彼らに、凱旋の中で勝ち誇られました。1キリストは十字架につけられた時、贖いを完成するために働いており、また父なる神は、罪を裁くために働いていました。2同時に、支配たちや権威たちも忙しくしており、神とキリストの働きを妨げようとしていました。4神が罪を裁いていた間、邪悪な支配たちや権威たちはそこにおいて、非常に活動的であり、十字架につけられたキリストの周りに群がり、とても近くに押し迫っていました。aもし彼らが近くに押し迫っていなかったなら、神は彼らをはぎ取ることはできなかつたでしょう。b「はぎ取り」という言葉が示しているのは、私たちの衣服と体が近いのと同じく、支配たちや権威たちがとても近くにいたということです。5神は支配たちや権威たちをはぎ取った時、彼らを公然とさらしものにして、彼らを辱め、十字架において彼らに凱旋の中で勝ち誇りました。

疑いもなく、キリストが十字架につけられていた時、支配たちや権威たちは彼の周りに群がっていました。神とキリストの両者が働いておられました。キリストの働きは彼の十字架でしたが、神の働きは罪とすべての消極的な事柄を裁き、律法とその規定を十字架に釘づけることでした。神とキリストの周りに集まった支配たちや権威たちも働いていました。もし彼らが近くに押し迫っていなかったなら、どうして神は彼らをはぎ取ることができたでしょうか？

神の救いのエコノミーの中で、神は私たちを生かし、律法を十字架に釘づけ、邪悪な支配たちや権威たちをはぎ取られます。...神が律法と天使たちを取り除かれたので、私たち、彼の選ばれた民は、ただ彼と共にいます。...神はここにいて私たちを生かさされ、私たちはここにいて彼によって生かされます。私たちは律法と天使たちを忘れ、神にご自身を命として私たちの中へと入れていただくべきです。

私たちは、支配たちや権威たちについて、カルバリで神が彼らをはぎ取り、彼らに勝ち誇られたことを思い起こすべきです。神の勝利に基づいて、私たちは彼らに、退けと命じることができます。私たちが今日、必要とするのは律法でも天使でもなく、生かす方、命を与える方です。これが神の救いのエコノミーです。

### 適用:ビジネスパーソン、大学院生編

証私には、ビジネスライフにおいて、一面で主の祝福のゆえに業績を上げることができましたが、もう一面で多くの人からの激しい迫害を受けました。私が最後に勤めていた会社は、米国企業と日本企業の合弁会社でした。役員たちは、私以外は全員、日本の親会社からの人たちでした。私だけが米国で面接を受け採用されました。この合弁会社のビジネスは、米国の親会社の製品を日本で販売することでした。このような状況で、2つの親会社の間には、長い間大きな溝が存在しました。

米国本社の私に対する期待は、日本の子会社を、当時の日本市場での中堅会社から最先端の医療技術を持つ医療機器を導入できるマーケット・リーダーにすることでした(彼らは米国では既にその地位を確立していました)。しかし、日本の親会社や会社の幹部たちは、長年の中堅会社の地位に満足していたので、この変化を嫌い、受け入れようとしませんでした。私は米国本社のサポートの下、改革を進め、業績を著しく改善できました。彼らはそのことを妬み、また改革を受け入れられなかったのもので、日本側の親会社と共に全員で一致して私を攻撃してきました。その後、日本側の親会社の会長(彼は財界でも非常に有名な人です)と社長が私を訴えるために、米国本社の最高経営責任者(CEO)と最高執行責任者(COO)とロサンゼルスで会議を開きました。その結果、米国側は、日本側の提案である「私を解雇する」ことを却下して、1.2億米ドル(現在のレートでは約180億円)ですべての株を買収し、完全に子会社化することを決定しました。その後、米国本社は、私に反対した当初からの役員たちを全員解雇しました。

私はこの外側の戦いの背後に、サタンが召会を建造する私を標的にして攻撃していることを認

識していました。この攻撃は始まってから終結まで約1.5年かかりました。戦いの最初の時に、私はおもだった奉仕者たちの集まりで、主の勝利に立ち、この件を祈るように求めました。30分間、皆でひざまずいて祈り、主を賛美しました。その時、私は内側に明らかな平安があったので、彼らに以下のように宣言しました、「私には平安があったので、この戦いにおいて、私は必ず勝利します。それだけでなく、私は既に勝利しています。今後は、皆さんはこのことで、主に求めるのではなく、主の勝利を賛美してください」。サタンと彼の軍隊は私を攻撃して迫ってきましたが、私が兄弟姉妹たちと賛美している時、邪悪な軍勢が既に剥ぎ取られたことを適用することができました。ハレルヤ！ [エペ6:12](#) というのは、私たちの格闘は血肉に敵対するものではなく、支配者たちに、権威者たちに、この暗やみの世の主権者たちに、天上にいるあの悪の霊の勢力に、敵対するものだからです。

[ヘブ2:14](#) こういうわけで、子供たちが血と肉にあずかっているの、同様に彼ご自身も同じものにあずかられたのです。それは、彼が死を通して、死の権能を持つ者、すなわち悪魔を滅ぼすためであり、**祈り** おお主イエスよ、キリストは贖いのために十字架につけられた時、父なる神は、罪を裁くために働かれました。同時に神は、十字架につけられたキリストの周りに群がり、押し迫っていた邪悪な支配者たちや権威者たちを剥ぎ取り、公然とさらしものにして辱め、十字架において彼らに凱旋の中で勝ち誇りました。私はあなたの中で、押し迫って来る邪悪な勢力の剥ぎ取りを経験します。キリストの十字架は、私の罪の問題を解決するだけでなく、律法と邪悪な天使たちをも取り除かれました。敵からの攻撃があっても、前に置かれた喜びのゆえに主と共に耐え忍び、前進します。

**CP2** 召会は団体的な戦士として、霊的戦いに従事することによって、花嫁の用意を整える

**II** 私たちの前に置かれた喜びは、花婿である主イエスが、用意を整えた彼の花嫁のために来ることです

**E** エペソ6章と啓示録19章が啓示しているのは、花嫁としての召会が、神の敵を打ち破る戦士でもなければならぬということです：[啓19:7](#) 私たちは喜び歓喜し、彼に栄光を帰そう。小羊の婚姻の時が来て、彼の妻は用意を整えたからである。**1** 霊的戦いは、からだの事柄です。私たちは団体的な軍隊であり、地上における神の権益のために戦います。**2** エペソ5章では、言葉は養いのためであり、花嫁を美しくします。しかし、エペソ6章では、言葉は殺すためであり、団体的な戦士としての召会が霊的戦いに従事することができるようにします。[エペ6:17](#) また救いの

かぶとを受け取りなさい。さらにその霊の剣、すなわちその霊である神の言葉を、**18** すべての祈りと願い求めによって受け取りなさい。どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒のために根気と願い求めの限りを尽くし、このために目を覚ましていなさい。

**3** キリストは戦う将軍として、彼の軍隊である彼の花嫁と共に来て、ハルマゲドンで反キリストと戦います。

**4** 婚宴の礼服は、私たちの日ごとの義として私たちから生かし出されたキリストです。これにより、私たちは婚宴に参加する資格を持つだけでなく、また軍隊に加わる資格をも持って、ハルマゲドンの戦いにおいて、キリストと共に反キリストと戦います。

近代的な軍隊において一人で戦いに突入する兵士はだれもいません。そうではなく、彼は良く訓練され、十分に装備された軍隊の一員として戦います。私たちは団体的に軍隊に形成された後、神の敵と戦うことができます。...ですから、軍隊から孤立することはとても危険です。軍隊の中にとどまることによってのみ、私たちは必要な保護を持ちます。

エペソ5章では、言葉は養いのためであり、花嫁を美しくすることに導きますが、エペソ6章では、言葉は殺すためであり、団体的な戦士としての召会が霊的戦いに従事することができるようにします。神の言を祈り読みすることは、私たちの内側の内敵を殺す方法です。毎日、どんな状況でも、私たちは祈り読みすべきです。私たちの内側で消極的な事に悩まされる時はいつでも、霊の中で祈りによって神の言を取るべきです。私たちがこうするとき、消極的な要素は殺されます。

エペソ6:17でパウロは私たちに、「その霊の剣、すなわちその霊である神の言葉」を受け取るように命じています。これは、私たちが敵と戦うために剣としての聖書の言葉を取る必要があることを意味します。この節のパウロの言葉によれば、神の言葉は直接的にはではなく間接的に剣なのです。...剣は直接的に言葉ではありません。そうではなく、剣は直接的にその霊であり、そしてその霊は言葉です。これは、もし私たちが敵サタンを対処したいなら、聖書の言葉はその霊とならなければならぬことを示しています。

**適用: 青少年・大学生、新人編**

**証1** 日々時間を贖って戦わなければ、敗北の道が待っているのを最近よく感じています。主の導きがあり、また主を愛する責任兄弟たちがいることを感謝します。彼らはいつも霊を活用する模範を見せてくれるだけでなく、観察、識別、洞察力を通して、絶えず私をリマインドしてくださいませ。リマインドされると本当に目が覚められ、同時に、学んで前進しないと、主にも兄弟たちにも申

し訳ないという気持ちがあるが心の底から湧いてきます。今の召会生活は豊かです。御言葉の追求、真理の訓練、多くの福音の開展、多くの訪問、多くの国内外の兄弟姉妹との取り組みとブレンディングがあります。良い刺激を与えられる中で主の愛と励ましと力づけがあります。士気が高められ、からだの働きの力を味わえることを感謝します。

**証2** 召会生活が回復されたばかりの頃、私はあまり進んで自分個人のことについて交わりたくありませんでした。例えば、大学受験の時、実は希望大学や合格発表の時間などを兄弟姉妹に言いたくありませんでした。何故なら、兄弟姉妹が祈ってくれたのに、落ちてしまったら格好悪いし申し訳ないと思ったからです。できれば自分一人でこっそり頑張っ、合格できなければ自分でその結果を受け止めれば良いと考えていました。しかし、兄弟姉妹は真に関心を持ってくださり、いつも聞いてきて、積極的に祈ってくれました。結局、受験した3つの大学すべてに合格しました。しかし、私にとって大きかったのは、受験結果よりも、受験勉強において、失敗などを恐れる思い煩いより救われ、平安の中で準備することができ、より主と兄弟姉妹に信頼するようになったことです。結果は全て主の御手にあるから、合格できなくても失望する必要はないし、合格しても高ぶることができないことを少し学びました。

自分はキリストのからだの一体であり、団体の戦士の一人であるので、兄弟姉妹に開き自分自身を委ねることにより、置かれた環境の中で主を経験して成長し、生ける道が開かれ多くの霊的な祝福が得られることも少しずつ理解するようになりました。私たちの主に対する経験や命の成長は建造に繋がるので、主に栄光を帰し、敵を恥ずかしめることができます。自分一人でしたら、思い煩いなど性格の弱さやプレッシャーで潰されていたと思います。たとえ自分一人で受験を成功させたとしても、多く主を経験し多く霊的な益を得ることができなかったはずで

以前は、兄弟姉妹が家や車を購入した時、そのために祈りましょうと言われても、何でそのような個人のことのために祈らないといけないかが分かりませんでした。しかし今は、兄弟姉妹が生活のことを召会に繋げることによって、彼らは多くの霊的な祝福を得ることができると分かるようになりました。もっと兄弟姉妹に開き、自分自身を主と召会に委ねたいです。また、兄弟姉妹がもっと主によって得られ成長して、霊の祝福を得るために祈りたいと願います。私たちは単独ではなく、緊密に繋がり主の団体の戦士となります。

**祈り** おお主イエスよ、霊的戦いは、からだの事柄です。私は聖徒たちと共に、団体的な軍隊として地上における神の権益のために戦います。私は団体的な軍隊の一員ですので、主と兄弟姉妹に開き、委ねて、自分の置かれた環境の中で、その霊の剣を取り、敵を対処します。私たちの前に置かれた喜びは、花婿である主イエスが、用意を整えた彼の花嫁のために来ることです。この喜びのゆえに、主と召会と共に前進し続けます。

## 神戸に在る召会 交わりと報告事項

- 1. 国際華語特別集会@台北:2/10(土)-11(主)**  
Zoom中継で集会に参加できます。2万5000人が集まるブレンディング集会ですので、多くの兄弟姉妹がこの集会に参加し、キリストのからだの豊かな交わりを享受できますように。  
2/11(主):M4 10:00~(この集会は各地区必ず参加してください。)、M5:12:00~  
Zoom ID:851 2479 8841(日本語)  
631 562 5221(手話)  
パスワードはいずれも31です。  
※中国語と英語は、<https://www.lsmwebcast.com/>のリンクにアクセスすると、通訳の中継を聞くことができます。
- 2. Youtube福音集会:**  
2/11(主)の魚崎・六アイ地区の福音集会は、14:30-50までパンさき集会後、14:50~行います。
- 3. Youtube福音集会録画担当地区:**  
2/18 YP、2/25 六甲
- 4. 土曜7:55-8:25預言準備担当地区:**  
2/17 夙川、2/24 六甲
- 5. Daytimeトレーニング徳島日帰りブレンディング旅行:3/2(土)10:00-15:00**
- 6. 関西・四国・東海・ブレンディング集会:**  
3/16(土)10:00-11:00@魚崎